



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

国立大学法人 大阪大学

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-1

TEL: 06-6877-5111 (代)

www.osaka-u.ac.jp

Press Release

2024年8月6日

被災地から始まる復興支援と教育活動 大阪大学福島拠点を福島県大熊町に開設

❖ 概要

大阪大学は、8月6日に福島県双葉郡大熊町に「大阪大学福島拠点」を開設しました。

大阪大学では、2011年3月に発生した東日本大震災直後の支援活動を契機として、福島の地において、調査や研修を行ってきました。このたび、大熊町の多大なるご支援を賜り、大熊町連携大学等研究・支援センターに新たな常設拠点を設置するに至りました。

8月6日には大熊町とともに開所式を実施し、その活動を開始しました。まずは、2016年から実施してきた福島環境放射線研修について、今年度からは新拠点で実施します。今後、当拠点を軸に、本学の教育・研究活動のさらなる活性化や他大学・機関との連携による新たな活動を進めていきたいと考えています。

❖ 拠点開設の経緯

2011年3月の東日本大震災後、大阪大学の核物理研究センターが中心となり、震災直後から避難者に対するスクリーニング調査や子供たちの甲状腺被爆調査などの支援活動、土壌調査などを行ってきました。

これらの活動が契機となって2016年に始まった福島環境放射線研修は、本学が主催する学生向けの教育プログラムで、福島第一原子力発電所事故後の福島県における環境放射線の状況を、自然科学面と社会科学面の両面から学ぶことを目的としています。学年や専攻を問わず参加でき、留学生や他大学からの参加者も受け入れています。現地での研修は、放射線測定や被災状況の視察、地元住民との意見交換などを通じて、放射線に関する正しい知識と、そこから派生する社会問題についての理解を深めるものであり、研修開始当初の2016年は参加学生が10名程度でしたが、現在では200名を超えるまでに発展しています。

福島環境放射線研修は、飯館村、大熊町、双葉町と連携して実施しています。このたび、大熊町から大熊町連携大学等研究・支援センターを設置するにあたり、本学へ貸与いただけると申し出があり、「大阪大学福島拠点」として整備するに至りました。



2023年度の研修の様子



Press Release

❖ 今後の展開

まずは、今年度の福島環境放射線研修を、8月～9月にかけて新設された常設拠点を中心に実施します。これまでは常設の拠点がなかったため、当研修は年に2回程度の実施に留まっていた。今後は、この常設拠点を活用し、研修の規模と頻度の拡大を図っていく予定です。

さらに、この拠点は現地での教育活動にも貢献します。大阪大学では、小中高生を対象に未来の研究者を育成する「めばえ適塾[※]」を実施してきました。この取り組みは福島県の地元自治体からも高い関心を集めています。今後は、この「めばえ適塾」を現地の拠点でも展開することを構想しています。

この拠点を活用し、本学の教育・研究活動をさらに活性化させるとともに、他大学・機関との連携による新たな取り組みを進めていきます。これらの活動を通じて、東日本大震災という未曾有の災害からの復興に、様々な面で貢献していく所存です。

※ めばえ適塾

科学への強い興味関心を持つ小中高生を対象に、実習などを通し数理系のセンスを身につけることで未来の研究者を育成することを目的とした教育プログラム

❖ 西尾 章治郎総長のコメント

このたび、大熊町の多大なるご支援を賜り、大熊町連携大学等研究・支援センターに「大阪大学福島拠点」を新たに設置するに至りました。

大阪大学では、震災直後からスクリーニング調査や甲状腺調査などの支援活動を行ってきました。これらの活動を契機として、2016年に福島環境放射線研修を開始し、今年是他大学の学生を含め約200名の学生を現地に派遣し、研修を行います。

福島拠点という常時利用できる活動基盤を得たことにより、当該研修を通年で実施することや、地元自治体からの期待が大きい、小中高生を対象に未来の研究者を育成する「めばえ適塾」の活動を本拠点で展開することも可能となりました。

今後、当拠点では復興に向けた様々な課題の解決にかかる研究や人材育成などの活動を展開し、東日本大震災という未曾有の災害からの復興に貢献していきたいと考えております。